

## 会議録：「平成30年度第1回恵那市産業振興ビジョン検討部会」

---

日時：平成30年10月22日（月曜日）10：00～

林業部会は10月12日（金曜日）10：00～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：別紙参照

### 1. 開会

### 2. 恵那市産業振興ビジョンアクションプランの説明（別紙参照）

事務局：「昨年度は各産業の現状を分析し、課題を洗い出した。それぞれの分野で目指すべき姿を設定し、それを達成するためにやるべき取り組みを考え、3月にビジョンを策定した。しかし、やるべき取り組みの方向性を示したに止まり、具体的な内容がほとんどなかった。その中で、各分野でモデル事業を実施し、効果を検証しながらビジョンを肉付けしていこうということで昨年度のビジョン検討部会を終えていた。

これまでの半年間、モデル事業を実施しながらビジョンの進捗状況と効果を分析し、アクションプランの素案として作成した。この素案は行政目線で分析したものであり、事業者の皆様とギャップがあるかもしれない。

今年度の検討部会では、そのギャップを洗い出し、なぜその事業が効果あったのか、または効果がなかったのかを考える。その上で今後やるべき取り組みを考えていく。

今回、作成したアクションプランは平成30年度から32年度までの3年間を想定している。社会情勢が激変する中で迅速に変化に対応するため出来るだけ早く見直しをするため。

9ページからは優先的に実施する7つの重点プロジェクトについて、今年度どのような事業を実施しているかを表記したもの。◆で表記した事業が具体的な事業名となっている。「半分、青い。」関連事業など観光分野を中心にたくさんの事業を実施しているが、それらの事業の効果検証を分かりやすくするため、23ページ以降に「域外から稼ぐ産業の振興」「域内で稼ぐ産業の振興」「産業拡大とヒトづくり」を横軸とした表に整理した。「1. ものづくり産業の振興」について「域外から稼ぐ産業の振興」ではどんな事業が実施されているかなどが見やすくなっている。

今年度実施している事業について行政目線で評価した内容が26ページに記載してある。この後、個々の事業について事業者目線でどのように評価するかを意見として出してほしい。」

### 3. 各事業の進捗状況説明

事務局：27～84ページまで、関連する主な事業について取り組み状況と成果などを説明。

#### 4. 今後の取り組みの考え方と意見交換

##### 「商業・観光部会の主な意見」

- ・「半分、青い。」に関してスタートが遅かった。ドラマに関する情報提供がなかったことと、事業者を取りまとめる組織（人）がいなかったことが原因。
- ・おばあちゃん市でも売れる商品がなかった。「あまちゃん」は5年経過しても関連商品が売れている。ドラマに合わせて生産を増やすなどしてくれると良かった。
- ・「麒麟が来る」の時には、早めに商品開発をすすめるべき。情報共有も早めにしていただきたい。
- ・ドラマ効果はよく続いても1年。そのために生産ラインを増やすなど無理はできない。
- ・観光客から「岩村には食べる所が少ない」「やっている店も早く閉まってしまう」などの意見を聞いた。他の地域の店の情報がないためお客さんに情報提供できない。お客さん目線での情報提供が必要。
- ・NHK のロゴマークの使い方の講習会をしてほしい。規制が厳しく、どう使っているのか分からない。
- ・NHK は規制が厳しく動きづらい。恵那市がドラマの権利を一部買い取るなどして情報提供できるといい。
- ・恵那市の観光で検索ヒット No 1 は岩村でなく恵那峡。しかし恵那峡のマップもない。地域のバランスを考えて誘客する必要がある。
- ・マーケティングが出来ていないので、ターゲットがどの年代で男性か女性か分からずコンテンツも創れない。
- ・中津川と恵那でイベントが重なる。年間のイベント計画を作って効率的に集客した方がいい。観光客が減る冬などにイベントを分散できるといい。
- ・自分の所に来たお客さんを分析して、その人に合った観光地を紹介している。スマホでおススメ観光ルートが出るシステムなどあるといい。
- ・おばあちゃん市は小原の四季桜を見てから立ち寄ってくれる観光客もある。自分の施設だけでなく、周辺地域と連携しながらやっていくといい。そういった場合、他地域のことを熟知しているコーディネーター的な人がいるといい。恵那市観光協会にそういった職員が配置されるといい。
- ・観光で歩かない人が増えている。団塊の世代も高齢化している。バリアフリー化、二次交通の対応なども必要になってくるのではないか。
- ・観光分野におけるマーケティングとそれに合わせたコンテンツ整備が大切。
- ・観光入込客数のデータの取り方が正確でない。
- ・今後増えてくるFIT（外国人個人旅行者）に対する案内も出来ていない。
- ・FIT は大きなマーケットである。外国人旅行者と地域が上手くつながるネットワーク化の検討も必要。
- ・観光分野においても労働者不足が深刻化している。外国人労働者の検討もしている。居住地、通勤などの問題をクリアしていかなければいけない。行政としても対応を検討してほしい。
- ・恵那市全体の観光振興の計画がない。
- ・マーケティングによりターゲットを明確にし、情報提供をすれば土産物などの商品開発は進むか。他の事業者から何人かの仲間で企画し、ゴールを決めて商品開発などをしたいとの意見もあった。

- 仲間でやると遅くなる。コンセプトを統一し、個々で開発した上でそれらをまとめて情報発信した方が早く対応できる。
- ・国も進めようとしているキャッシュレス対応はどうか。  
→消費増税とあわせた政府の動向をうかがっている。クレジット対応しているが、デビットカードなどの対応も検討している。
  - ・クレジット決済手数料の負担が大きい、年々利用者は増加している。
  - ・手数料は昔 5%ぐらいだったが、今は、クレジット会社が競合しているため安くなった。3~4%。「えなてらす」では導入した方がいい。
  - ・クレジットの決済手数料をどうするか。商品に上乗せは難しい。
  - ・客単価は上がる。
  - ・現金しか使えないと理解している客が来るので今のところ導入は考えていないが、将来的には必要となってくる。

#### ■まとめ

- 事業者を取りまとめる組織（人）がない
- 他地域の情報がないため観光客に情報を伝えられない
- 恵那峡の観光マップがない
- マーケティングによるコンテンツ整備が重要
- 近隣地域でイベントが重ならないよう調整が必要
- 拡大する FIT マーケットへの対応（案内、キャッシュレス）
- 高齢化する国内旅行客への対応（バリアフリー、二次交通）

#### ≪工業部会の主な意見≫

- ・説明会等での自社・仕事内容の伝え方についてのノウハウがない。スキルアップするようなセミナーがあれば良い。
- ・大企業であれば専門的な部署を置いて行っているが中小ではできない。
- ・行政がサポートする部分があるため、昨年度に引き続きセミナー等の支援を行っている。
- ・新卒がなかなか取れない状況になっている。特に大学生は難しい状況になっているため、市雇用対策協議会では高校生の地元企業への就職を進めるような取り組みを行っている。中途採用の状況はどうか。  
→これまで雇用対策は行っていなかったが、人材育成の考えの中で新卒を採っていく計画でいる。しかし今まで採用を行ってなかったためノウハウがなく分からない。  
→時代的に新卒が難しいのであれば第 2 新卒を狙っていく考えもあるが自社としては新卒の採用に力を入れていきたいと考えているため、セミナー等があればぜひ参加したい。  
→大卒は難しいため高校生の採用を行っている。転職（中途）についても積極的に採用を行っている。業務内容は専門性の高いものになるが OJT を行い問題なく働いてもらっている。離職率は低い。就職後 2、3 年で離職した若者が地元に残り仕事を見つけることは地域にとっても良いことなので今後も積極的に行っていく。
- ・高校生の採用について学校・先生との繋がりというのは重要か。

- 高校との付き合いは重要。インターンシップを積極的に行ったり、先輩が働いていたということが大きい。ある程度の土壌整備が必要。
- 新卒採用を計画しているため、高校の進路指導担当と話しをする機会があるが、超大手企業が入ってきているため、親の意見が大きく作用し、今まで付き合いのあった地元企業に生徒が就職しない状況も生まれているよう。
- 最近の学生は、あえて高校の先輩がいない会社を選ぶ子もいる。ただし7、8割の学生は地元就職を希望している。
- 卒業生が働いている繋がりですべてインターンシップを受け入れることが多い。中途採用も行っている。
- ・市雇用対策協議会での活動や各種助成金、セミナーの情報等の発信方法が課題となる。せっかく良い制度があっても使われなければ意味がないので、メール配信等で必要な情報が届くと良い。
- ・生産性向上を後押しするため、生産性向上に繋がる設備投資については固定資産税が3年間ゼロ円となる制度を設けた。実際の設備更新はどのように行っているか。
- 設備更新は能力アップを目的としたものと耐用年数の経過によるものの2パターンとなるが、それを操作するソフトウェアの更新が重要だと考えている。設備については特殊な機械となるため、納期が遅れる場合が多く、この点も国等の補助金を活用できない一つの原因となっている。
- 計画的に設備更新を行っていくのは重要なため、商工会として計画を作成してもらうようお手伝いをしている。
- 人手不足や生産性向上にはIT導入も重要。そのため自社ではIT補助金の申請を初めて行った。商工会でIT補助金の話をしても誰も反応しない。具体的にどうなるのかが分からないからだと思う。
- 生産ラインは専門性が高いためIoTの導入が難しいが、間接的なところでは積極的に活用した方が良い。委託業者はタイムカードを使い手渡しで給与を払っている。もっと効率の良いやり方があるので勧めているが来ていない。
- 企業には具体的な事例を挙げて伝えないと響かない。

#### ■まとめ

- 人材採用に関する研修・セミナーの継続
- 新卒・中途採用はどれも重要
- 高校生の採用には親の意見が影響
- 雇用対策協議会が実施する事業の周知方法を工夫する必要あり
- 生産性向上のためには設備だけでなくソフトウェア更新も必要
- IoT等の導入は重要だが、活用例や効果などの情報提供が必要

#### ≪林業部会の主な意見≫

- ・ 恵南森林組合では名古屋市の51歳の方を採用する。
- ・ 業務量を考えると全く人が足りていない。
- ・ 木を切ってくれる人がいない。
- ・ 新しく雇用できても5年くらいで辞めてしまう。賃金が低いことと、危険を伴う仕事

- であるため家族を持つタイミングで家族から反対される。
- ・近隣に大企業などが進出して転職してしまうケースもある。
  - ・人件費の補填があると求人しやすい
  - ・H31年度は環境税が増額になる予定なので、その財源を人件費に充ててほしい。
  - ・半林半Xの人でも大歓迎。しかし地域に根差した人材は育たない。
  - ・所得を上げるには生産性を上げることが必要。生産性を上げるには①技術力アップ②高性能機械の導入が必要。高性能機械のレンタルに対する補助でも助かる。
  - ・新人を採用しても現状の人員では教育する余裕がない。
  - ・森林アカデミーなど初級～中級の技術研修はあるが、その先は事業体まかせなので育てるのが難しい。
  - ・来年以降に岐阜県が実施する技術者育成研修を活用できれば活用したい（内容不明）
  - ・組合や事業体に属していない林業者や退職した技術者に新人育成をしてもらうことは難しい。
  - ・高山市などでは週末林業を推進しているが、恵那市では指導する余裕がない。
  - ・「緑の雇用」などの活用により3年間は補助金をもらえるが、補助金が終わった後の人件費をどう捻出するかが課題
  - ・恵那市で担い手となるのは、お金と暮らしをセットで考える林業好きな移住者。
  - ・郡上ではヒノキを活用した下駄を製作し、かなり売れている。恵那市でも消費するものを恵那の木で作れるといい。例えばお酒の升など。

#### ■まとめ

- 人材不足。木を切ってくれる人がいない。
- 人材不足のため人材育成の余裕がない。
- 岐阜県の技術者育成研修の活用。
- 半林半X人材も歓迎。
- 賃金の低さと危険性により5年で辞めてしまう。
- 賃金を上げるには生産性向上が必要。生産性向上には①技術力アップ②高性能機械の導入が必要。
- 他市の取り組みを参考に消費財を恵那の木で作るといい。

## 7. 閉会

事務局：「本日、検討部会で出された意見を取りまとめ、今後の取り組み内容に反映させた案を次回検討部会で再度議論いただきたい。また昨年度までの意見や事前ヒアリングでいただいた意見を基に考えた今後の取り組み内容がアクションプラン 85 ページ以降に記載してある。内容を確認いただき、意見をいただきたい。

今年度は11月中旬に第2回検討部会を開催し、今後の取り組み内容の考え方をまとめる。それを親組織である恵那市産業振興会議に諮り審議いただく。来年3月に最後の検討部会を開催し、平成31年4月以降に実施するアクションプランとして固めていくスケジュールなので引き続き協力をお願いします。」